

# 『長良川漁師口伝』と

## 著者 磯貝政司さんのご紹介

『長良川漁師口伝』の著者 磯貝政司さんが昨年7月に亡くなりました。82歳でした。

磯貝さんは愛知県新城の出身で、近くの豊川を絶好の遊び場として子供時代を過ごしました。高度成長時代に岐阜、北海道、長野などで企業戦士として働き、40代の後半に公務員に転職し一宮に落ち着きました。

以来川好きのDNAが目覚まし、木曾三川流域の撮影をはじめ、1992年に写真撮影の途中で大橋兄弟に出会いました。兄弟の魅力に引き寄せられ、以来18年間にわたり兄弟の元に通い、幼い頃から漁師として過ごした日々を聞き取り数百時間に及んだテープを元に『長良川漁師口伝』をまとめられました。その理由を、「今を生きる人たちが決して撮ることができない過去の長良川を印画紙の代わりに“ことば”で残そうと考えたのでしょう。言い換えれば「川漁師の活字の写真」を撮りたかったのだと思います。」と後書きの中で語っておられます。

この本は今では長良川にはほとんどいなくなってしまった專業川漁師の興味深いさまざまな漁の仕方だけでなく、昭和から平成の激変してきた長良川の歴史を知ることのできる貴重な記録となっています。

「長良川は何としてでも後世のために残しておいてやっとかんといかんでなあ」川を愛し、命の力を信じ、トコトン漁一本で生き抜いてきた大橋兄弟の絶妙な語りと聞き手の声が聞こえてくる本です。

## 長良川漁師口伝

— 僕んたア、長良川の漁師に生まれてよかったなあ —

- |      |               |     |                  |
|------|---------------|-----|------------------|
| 第1章  | こだわりのサツキマス漁   | 第2章 | 先代漁師—祖父・おやじのこと   |
| 第3章  | 川が学校—僕んたアの幼少期 | 第4章 | 兄弟漁師誕生           |
| 第5章  | 豊漁の川—全盛期の漁    | 第6章 | 生命を託した川激変        |
| 第7章  | 長良川河口堰に揺れる    | 第8章 | 長良川今昔            |
| 第9章  | 漁師の生まれで幸せだった  |     |                  |
| 第10章 | 長良川よ！ 番外編     |     | ジャポニー輪島塗を支えるネズミ漁 |

著者 大橋亮一・大橋修 磯貝政司（聞き書き・写真）

発行 人間社

2010年6月10日初版 461頁 定価 2600円

